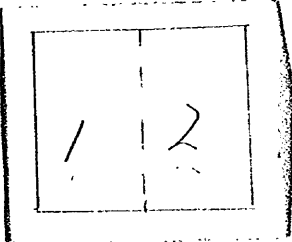
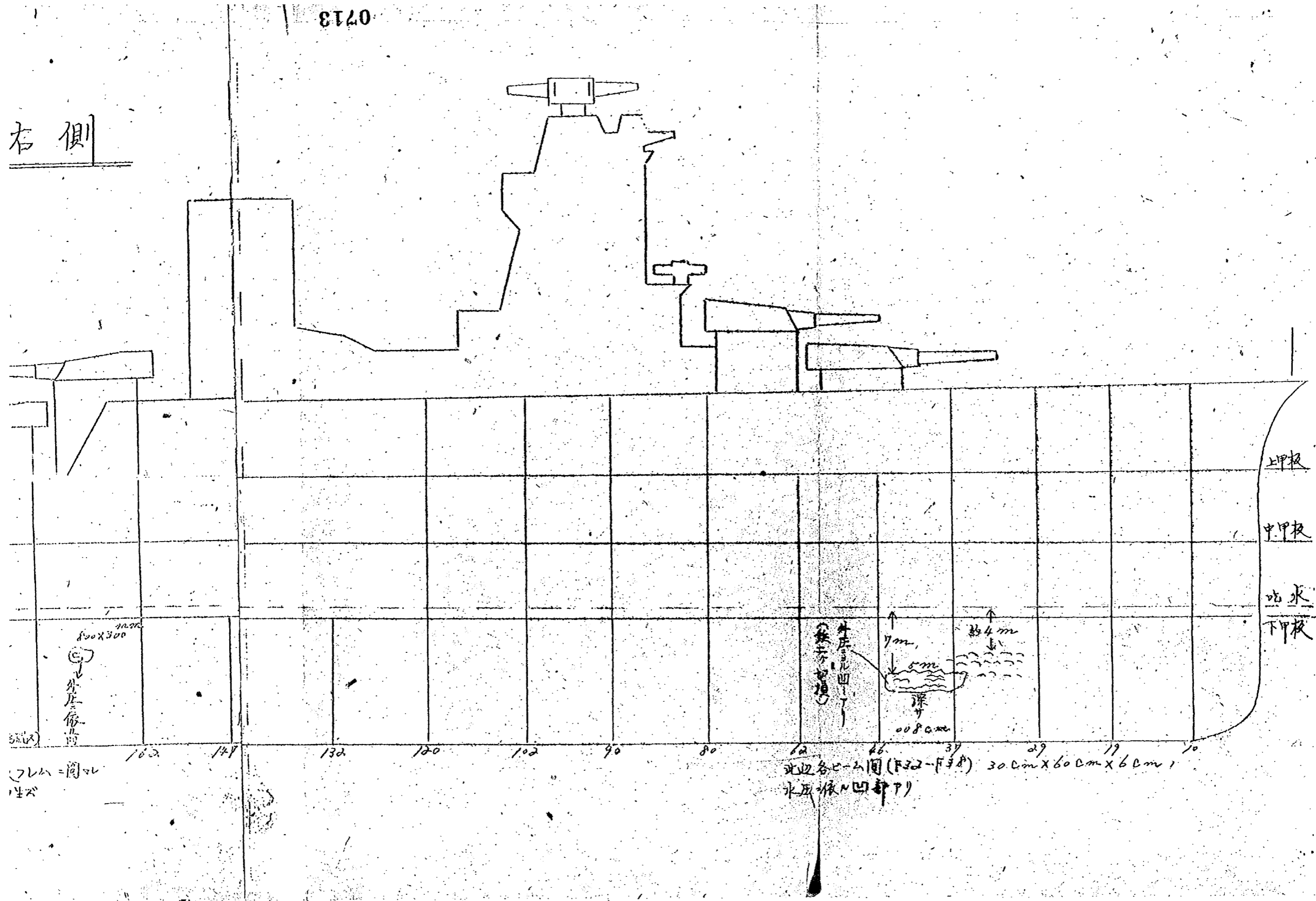


分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 26 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形文夫 (印)</p>	

0113

右側

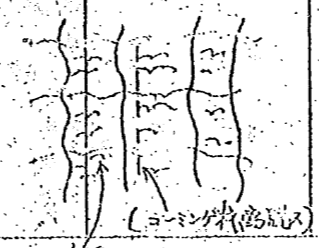
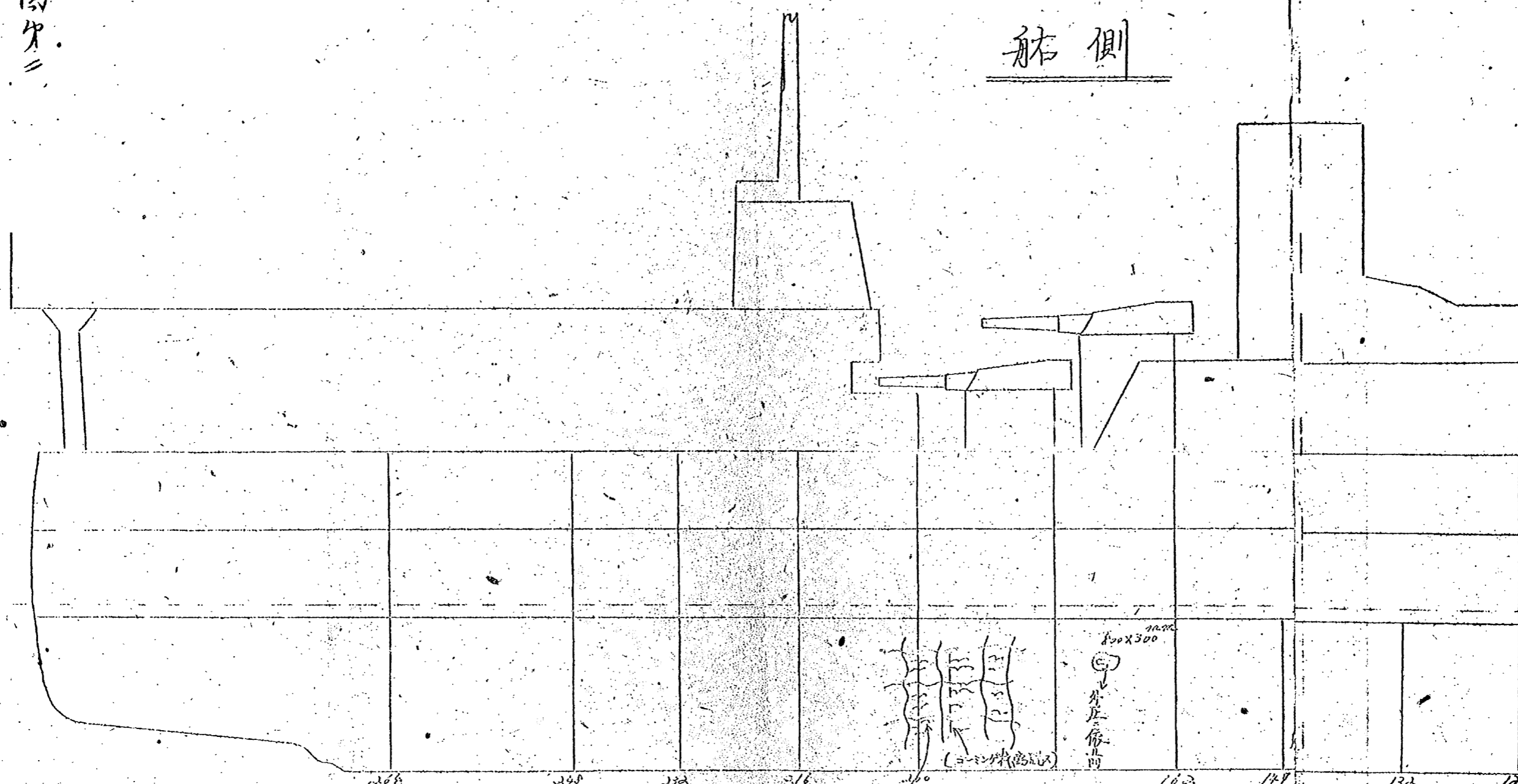


0713

0710

別圖第一

船側



北の階は各セーム及フレム=間
 知印ハ概テ四処ヲ生ズ

1200
 800x300
 ⑤
 ↓
 外底係止
 止

260 240 220 200 180 160 140 120 100

?

兵器

(1) 砲術科

損傷箇所	損傷状況
二十番機銃	至近弾水柱に依り機銃台吹き飛ばされ使用不能
二砲塔塔上機銃	小型爆弾命中に依り應急弾薬筒三個誘爆し機銃一部に毀損スル上共二砲塔測距儀防熱鏡ニ破孔ヲ生ズ
二十番機銃右銃	弾片に依り破損使用不能
十番機銃中銃	
二十番機銃左銃	
二十四番機銃中銃	膽發に依り使用不能
二十五番機銃左銃	
七番車載機銃	

(ロ) 航海科

損傷箇所	損傷状況
哨信儀 (二基)	至近弾より電線切断
六十輝信脚燈 (三基)	至近弾より破損
二十輝信脚燈 (二基)	至近弾より海中に吹飛ハサル
彈掲信脚燈	脱落破損
艦尾信脚燈	電線切断
二吉信脚燈	機銃掃射より破損
風信儀	破損
(イ) 通信科	
損傷箇所	損傷状況
空中線全部	爆風より切断落下セルモ大部分回復あり

三 機 關

(1) 罐室外側重油タンクにバルブ内破孔混水使用不可能ノモ、

外側十番重油タンク 四六七魁 計九五五魁

外側十番重油タンク 四八八魁

(2) 僅カ混水ノ傾向アルモノ

外側十番重油タンク 五三三魁

(3) 至近彈ニ依リ左舷擁炉白漆箱死線発亮ノ若キアリ

但シ全カ汽釀ニ支障ナシ

四 災 害

戦死者	准士官以上	ナシ
	下士官兵	七名
	准士官以上	ナシ
戦傷者	下士官兵	七一名

(砲術科)

戰訓並ニ所見

一 對空砲戰

(イ) 電探見張射撃機用トノ聯繫

一 部三型電探ノ性能ハ極大テ優良ニシテ概テ一七。料附所

ニテ確實ニ敵編隊ヲ捕捉セリ從ッテ見張之重点ヲ此方尙指示

シ得ルヲ以テ發見距離概テ三五乃至四〇料ニ及ビ充分ナル

余裕ヲ以テ戰鬥ヲ實施シ奇襲ヲ受ケタルコトナシ

要スルニ電探ノ性能尙依リ相互ニ連繫ハ所謂三位一體

ノ實ヲ擧ゲテ對空砲火ノ威力發揮ニ資シタル所極大テ

大ナリシモノト認ム

(ロ) 砲戰指揮

前項圖聯之防空砲戰實施上之余裕狀況下より得
 タルヲ以テ中距離以上ノ砲戰指揮ハ容易ナリキ
 敵編隊分散之中距離以内ニ直接ニ平素ノ訓練依ル艦長
 砲術長高射指揮官以下各射擊指揮官以心傳心
 精神の連繫並ニ戰則所定依リ各射擊指揮官
 ノ所信ニ依ラシムルヲ可ト認ム

(1) 射法
 (一) 主砲

大遠距離ヨリ回首スル目標ニ對シテ充分ナル測敵ヲ實施シ測敵
 利用變距射法ヲ要領ニ依リ最大射程附近ヨリ射擊
 ヲ開始スルヲ可トス
 此ノ場合敵ノ回避ニ應カスル為ニ第一齊射ノ發砲時機ヲ可及
 的速カナラシムル為ニ交互打方ヲ有利ト認ム
 後述ニ式彈ハ極テ有効ニシテ信管距離「八〇」乃至

「五」附近ニテ向首大編隊ニ對シ射撃ノ與隊ヲ確
認セリ

初彈彈着少クモ第二彈（交互彈）彈着ハ編隊
ハ急ニ崩レ混乱ニ陥ルヲ例トセリ此ノ與ヲ見テ實ニ甚ク効
果ノ外敵ノ興ニ精神ノ的ノ脅威亦極メテ大ナリト認
中距離以内ニ入ルハ予メ信管ヲ規定セル極限射法
（第一信管 信管距離「一五」第二信管「二〇」第三信管
「五」第四信管「三〇」）ニ依ル彈幕射撃ノ方位盤獨
立打方ヲ可トス

而シテ今圓ノ戰鬥ニ於テハ第四信管ヲ主用セリ
横過目標機ヲ射スニテハ向首目標ニ對ス程ノ効果
ハ期待出來ザルモノ則速測的利用變距射法ノ要領
ニ依リ相當ノ効果アリ

② 高角砲

例へば敵艦接撃機(四機編隊を並行連上せり)に對し
最大射程附近に一彈發砲(彈藥節約上二彈宛ト
セリ)セル場合彈着時遠方向ニ急避退スル例ト
セルニト及母艦ニ向テ編隊群ヲ射撃ニ專攻ニ得タルニト
等ニ當レ相當ノ效果ヲ期待ス得ルモト認ム

③ 機銃

六〇以上ノ自標ニ對シテハ高射器射法ヲ實施シ效果
ヲ認ムルモ六〇以内向首スル自標ニ對シテハ寧ろ級梯
照尺ヲ可トスルコトアリ敵急降下ニ移ラバニ〇固定照
尺射機銃ハ目標指向装置ニ依リ射撃ニ效果ヲ收得ス
自艦ニ向首スル目標ニ對シテハ円環式照準器ニテ充分效果
ヲ期待シ得射多シル曳艙ノ指導ハ可能ナリ他艦

ノ掩護射撃手ハ「三〇」以内ヲラザレバ殆ンド効果ナシ此ノ際ハ
目標ニ追従セズ方向固定射撃ヲ可ト認ム

(四) 噴進砲

噴進砲ハ発射時機ト装填ガ最も重要ナル事項ナリ

普通照準装置ニテ目標ヲ照準シテ距離「一三〇」ニ對スル彈丸

低下量ヲ各高角ニ應ジ修正セルモ未ダ照準シテ發射シ概

テ効果アリ電路ノ故障及追従不良ノ為砲側照準ノ

機會多キヲ以テ砲側照準容易ナル如ク防禦施設完備

ノ要アリ

(三) 主砲、高角砲機銃同時砲戰

主砲、爆風ニ對スル影響甚大ニ砲極度旋回附近ニ於テモ機銃一

群(總員)時離トナリ発射時、照準必ズ及高角砲一ニ番

砲(其ノ他ノ砲一ニ番砲手ノ程度跳止リ砲尾砲員ハ砲機銃

擔キタル儘轉倒セルモ射撃ヲ繼續セリノ外射撃ヲ可能且
 兵器ノ故障ハ戦斗ニ支障ヲ來ス程度ノモノ生起セス但シ砲煙
 ノ影響ハ相當大ニシテ至近距離ニ肉迫セル敵機ヲ砲煙ノ
 爲見失ヒテ焦躁ノ感ヲ抱カシメタルモ若干アリ

之ヲ要スルニ第四次空襲ノ如ク八十数機ノ同時攻撃ヲ受ケ最
 後ノ彈幕ヲ構成スルノ要アルが如キ緊急ノ場合ハ同時砲
 戦ニ関シ意ヲ介スルノ要ナキモノト認ム

(ホ) 主砲三式彈・零式彈ノ價值

今回ノ成果ニ鑑ミ突撃効果ニ加フルニ敵ニ與フル精神的效果
 威ヲ大ナルミナラス味方ニ對シテモ發砲音が艦内各配置ニ
 於テ等シク心強ク感ジタリト一樣ニ言フ處ヨリ見テ戦斗中ノ
 士氣振作上精神的效果大ニシテ其ノ價值極メテ大ナルモ
 ノト認ム

而シテ三式彈ハ彈子距離大即遠近有効帶ソ大ナルコト
 及零式彈ハ炸藥量大ニシテ横中廣ク彈片ハ効果大ナルト
 等ニ鑑ミ前者ハ向首目標ニ対シ後者ハ横過目標ニ対シ効果
 大ナルト認ム

但ニ對執力ノ變化急変スル對空戰鬥ニ於テ一々之ニ應ズル
 彈種ノ変更ハ困難ナルヲ以テ各有射ニ三式彈零式彈

ヲ適宜混入シ供給スル如クストヲ可ト認ム

尚零式彈ハ空爆セルモ三式彈ハ比較的盲目彈多ク見
 受テラレタルヲ以テ更ニ充分ナル研究ヲ緊要ト認ム

(2) 噴進砲ノ價值

本艦ハ後部ニ片舷ニ基宛計ニ基裝備シテリ
 急降下群ニ對シ之ヲ使用シ極大ニ有効ニ利用セザレタリ
 敵ハ從來ノ戦法タル後方ヨリ進入スルモノ殆ト皆無ナリ

二 對空兵器

之状況ニ鑑ミ新兵器噴進砲ノ價値充分ニ發揮シタルモノト
 上思考ス又艦ノ運命ヲ決スベキ所也次空襲時ノ如キ最
 後濃密ナル彈幕構成ニ最モ有効ナリト認ム
 今回ノ実績ニ鑑ミ更ニ射程ノ延伸ヲ圖ルト共前部中
 部ニモ相當數ヲ増備シテ周ニ之ガ砲火ヲ指向シ得ル如
 クスルノ要アリ尚現在在噴進砲彈ハ信管材料時ヲ異ニテ
 ルモ射程大ナルモノニ一定スルヲ有利ト認ム

(1) 今回ノ戦斗ハ協力スマツ味方戦斗機ノエザリシト云フニ天候
 視界良好ナリシト及距離近ク敵ノ反復攻撃ノ容易ナリ
 シト等敵最モ有利ナル狀況ニ於テ連續執拗ナル攻撃ヲ勇
 敢ニ加ヘ来リ特ニ第四次空襲ノ如キハ戰艦タル本艦全機
 (戰爆雷編隊約八五機) 集中魚雷十一本一〇〇米以

内ノ至近彈三十四發ニ及ビタル如キ情況下ニ於テ全員克ク力
 斗シ艦ノ運命ヲ救ヒ得タル所以ノモノハ雷爆撃ヲ回避運動ノ
 巧妙ナリシコト並ニ對空砲火ノ絶大ナル効力發揮ニ至ラ所大ナ
 リト認ム

マレー沖海戰ニ於ケル英戰艦ニ隻沈没ノ戰例ニモ鑑ミ
 伊勢型ノ對空兵裝ハ立体的ニ見テ其ノ砲銃種別並ニ其
 ノ配列數及其ノ組合セ等ガ極メテ好條件ニアルモノト認メ
 ラルヲ以テ伊勢型ノ現對空兵裝ニ関シ其ノ優秀ナル理由ヲ
 理論的ニ研究シ既成艦船ニ對スル對空兵裝ノ強化並ニ
 新造艦船ニ對スル對空兵裝ノ研究ノ對照タラシムルノ
 要アリト認ム

四 前項ハ單ニ一般的ニ見タル所見ナリ決シテ現在ノ對空兵裝ヲ
 以テ満足シ居ルモノニアラス今次ノ戰訓ニ鑑ミ左ノ如ク急速

強化ノ要アリト認ム

本艦型兵装ニ於テハ艦首方向ニ缺陷アリ少クモ艦首方向ニ噴進砲左右一隊宛機銃一隊乃至二隊ノ増備ヲ要ス

第四次對空戦闘ノ際一隊及ニ三隊電力故障シ砲側照ハ

準ニ移レル際敵機ハ此ノ隙ニ乘ジ攻撃ニ移ラントセリ幸

ニ豫メ此ノ事アルヲ豫期シニ三隊ノ一部機銃ヲ砲側照準

ニテ分火シオキタル爲直ニ之ニ對處スルヲ得タリ

右ノ例ニモ鑑ミ兵器ノ被害及故障ヲ豫期シ同一位置ヨ

リニ群以上他ノ位置直(艦首指向ニ對シテ中部又ハ後部)

ヨリ一隊程度ノ砲火ヲ集中シ得ル如ク配列シ且之ニ單裝

ヲ重複セシメオクヲ要ス尚單裝機銃ハ操從自在ニシテ練

度充分ナル聯裝機銃(砲側照準)ヨリ遙カニ有利ナ

リ

要スルニ本艦型トシテ主砲、噴進砲ヲ以テ外廓ヲ覆ヒ高角砲ヲ以テ其ノ間隙ヲ補填シ照準装置ヲ有スル機銃群ヲ以テ内廓ヲ固メ單裝機銃ヲ以テ其ノ間隙ヲ補填スル如クセハ伊勢型ノ對空兵裝ハ大ニ充實スルモノト認ム
 之ニ要スル所要數ハ更ニ噴進砲六基機銃七基ト認ム

三、兵器施設

(1) 今回ノ如ク連續執拗ナル長時間ノ反覆攻撃ヲ受ケ前述ノ如ク各砲銃種共相當數ノ彈藥ヲ使用シタルニ拘ラズ極メテ強靱ナル戦斗力ヲ最後迄發揮シ得タル所以ノモノハ一ニ兵器並ニ電路ノ故障殆ト絶無ニ近カリシニ依ルモノニシテ吳廠ニ近ク所在シ哨戒ノ顧慮少キ柱島方面ニ於テ徹底セル兵器整正備ヲ実施シ得タルコトニ起因スルモノナリト思考ス
 今回ノ戦訓ニ鑑ミ兵器ノ整正備ニハ今後共全海軍ヲ擧ゲ

テ更ニ之ガ徹底ヲ期スルノ要大ナリト認ム
今次ノ戦斗ニ於ケル兵器ノ故障缺損状況左ノ如シ

(一) 主砲

特ニナシ

(二) 高角砲

主砲發砲ノ激動並ニ爆風ニ依リ高射器ノ部ノ電路一時機故障(直ニ應急修理セリ)セル外特ニナシ

(三) 機銃

(一) 尾拴焼付

本戦斗中八件生起セリ最モ早ク生起シタルモノ約

六。發射撃後平均概ネ四〇〇發射撃後ニ生起

セリ

(二) 改良打針

本战斗中二十三件生起セリ最モ早キモハ二五〇発ニテ生起平均概ス八〇の發乃至一〇〇の發先端折レルモノ少ク中部又後部折斷ニ戦斗終了後發見セルモノ等アリ

(3) 膽發

本战斗中六件生起セリ最モ早カリニモハ六〇發乃至八〇の發發射後一般ニ四〇乃至五〇の發射撃後生起セリ

(4) 照準装置ノ故障

十群中六ヶ群電力故障ニ砲側照準ヲ行ヘリ

(4) 噴進砲

(1) 約三十五發發射後主砲近距離射撃中(右宮度)動力電流停止ス(主砲ノ爆風ニ依ルモノト認ム)

(2) 約一五〇の發發射後發砲電路切斷セリ(彈片依ル)

(五) 通信装置

四 戰鬥準備

(1) 戰鬥服裝

全身露出部ナリ程度戰鬥服裝ヲ充分ニ行フヲ要ス

機銃銃身ノ補用品ハ銃尾諸装置全部ヲ含ミ一基一銃程度ノ補用品ヲ要ス現在ノ如ク銃身ニテハ交換スルニ極メテ困難ナリ

(六) 補用品

電話ハ防空指揮所後部機銃指揮所間ニ終始連絡圓滑ナリニモ其ノ他機銃射撃ヲ開始セバ連絡トシテ方白盤號令通報器點灯式通信器目標指向裝置觸体信號ノ善用ニ依リ効果ヲ收メタリ總員聾トシテ平素ヨリ訓練スルト共ニ適當ナル通信施設ノ研究ヲ必要ト認ム

特ニ鐵兜ニ装着セル頭巾ハ面部ヲ覆フ如クシ爆風ニ對シ
 充分防禦セリ機銃員ハ特ニ脚部ヲ防禦スルヲ要ス
 脚胖ハ卷脚胖ガ最モ良好ナリ 噴進砲員ハ全身
 ヲ濡ラシテ靴斗ニ從事セルモノ靴斗毎ニ乾燥セリ
 尚靴入ハ鉄甲板上ニ滑止メノ施設ヲ要ス防毒面ハ噴進
 砲員ノ外備ヘオク程度ニテ装着セズ寧ロ動作ヲ敏活ナラ
 シムルヲ得策トス

(四) 砲側準備彈藥

高角砲ハ一門五。乃至六。發機銃ハ一銃五。乃至七。發

準備セリ。

機銃ハ一時機揚彈藥機故障セルモ特ニ缺乏ヲ感セ

ズ適當ナリシモノト認ム

(ハ) 防禦施設

土器具、吊床、マントレット、柔道畳等防禦施設ハ總テ
有効ニシテ特ニ電路ノ集中シアル箇所ハ萬遍ナク防禦
スルヲ要ス

㊦ 飲料水

飲料水ハ特令シテ準備セシメタルヲ以テ特ニ不自由ヲ感
セザリシモ緊要事項ナルヲ以テ各部ニ飲料水、タンク、ノ
設備ヲ要ス

㊧ 應急糧食

豫メ準備セシメ置キタル乾麵、麩、ヲ手違ニテ居住
区ニオキタル儘ナリシ為不自由ヲ感シタル所アリ、配置
附近ニ備ヘオクヲ要ス

五 配員

(イ) 定員

十時間ニ亘ル戦斗ナリシモ各員緊張シ最後迄強靱ニ戦
 斗カテ發揮セリ但シ主砲彈庫負水圧機負其ノ他彈火藥
 庫負ハ疲勞甚シク熱射病患者ヲ相當數出セリ
 主砲彈庫負各塔四名其他一名程度ノ増負ヲ必要ト
 認ム

(四) 兼務員

(一) 見張員

各群指揮所ニ配置シタル見張員ハ極メテ有効ナリ

(二) 銃員

各銃ニ名程度ノ兼務員ヲ充テ予奉ヨリ訓練シ置クヲ要ス
 銃尾員トシテ兼務員ハ結構役立ツモノナリ

(三) 運彈員

今回ハ被害ナクリシ爲應急自ラ運彈負トシテ轉用出來
 タルモ被害アル場合ハ之期待スル能ハサレテ以テ運彈負
 トシテ成可ク多数定メオクテ要ス
 四 彈庫負供給負ハ井務ニテ揚彈薬機ヲ故障セシム
 ニシテ却テ激升信アルヲ以テ更ニ各群ニ至五名ヲ増負ニ專
 務負トスルヲ要ス

六、電測利用状況並ニ其ノ價值

(1) 電波探信儀關係

(一) 群 三刑

二十五日。七。七真方位ニ。〇。度一七。〇。料ニ感ニ三編隊

ヲ捕捉セリ

此ノ編隊ハ其ノ後。七五。〇。頃迄直接セバ一七。〇。料ヨリ九五料

向テリ偽購紙ニ非ニヤト判断セラレタレモ。七五三ニ至リ真

方位ニ三五。度一六。〇。料ニ別ノ編隊ヲ捕捉シ左右ノ電探

ニテ兩編隊ヲ探信セルトコ西編隊ト七直接ヲ始メ九五。〇。料附近

ニ至リテ明ニ真方位ニ一。〇。度及ニ五。〇。度ノ二群ニ分離セリ

主砲發砲ノ激動ニ依リ左右交互ニ故障ヲ生起スモ故障

修理ヲ行ヒツツ探信ヲ續行第ニ次未襲ニ於テハ一。〇。五

一七。〇。料ヲ捕捉セリ

以後故障ノ處置並ニ調整對シテ餘祐少カリシ為感度低

下ノ概ネカノ料附近ニ捕捉スル止レリ

最後ノ空襲ニテ至近彈ヨリ西舷空中線破損ニ探信

不能トナレリ

(三) 二部一型

二千三百指示機故障ニ補用品ニ交換セル為感度不良ナ
リレコト及至砲發砲ノ激動ニ依リ數度直リ各部ニ
故障シ生起シ探信時同少カリシ等ノ關係上一三五。填丸。
料 附近ニ編隊ヲ捕捉セル外利用スルニ至ラス

(三) 電探利用状況

(一) 大遠距離ニテ目標ヲ發見シ刻々敵編隊ノ動靜ヲ明カニシ
早期ニ對シテ戰闘ハ準備ヲ完成シ充分ナル餘裕ヲ以テ
有効ナル對空砲戰ヲ實施スルヲ得タリ

(二) 早期ヨリ敵來襲ノ方向ヲ知リ見張ルニ重點ヲ之ニ指向得
タルヲ以テ見張員砲銃員ノ目標發見早ク至砲最大
射程ヨリ射撃ヲ開始シ其襲ヲ受ケタルコトナシ

(四) 見

(一) 一型電探ハ探信能力及信頼性極メテ大ナリ
(二) 二部一型一型三型共ニ發砲ノ激動ニ依リ機故障ヲ
生起セル狀況ニ鑑ミ防衛態勢ヲ置ニ圖ニ研究ヲ要ス

(3) 所見

敵潜水艦隻は二隊ヲナシ概不日出没後一時間前後正午頃ノ高面ニカキテ一約一時間探信ヲ行ヒ目標搜索シ電探電波ニヨリ通信ヲ行ヒ連絡スルモノ如シ

(2) 長時間連続電波ヲ探知セルモノ又ハ感度ニ変化(高低アルモノ)ハ敵電探ノ探信可能距離圏外(約二。乃至三。哩ト推定ス)ニアリテ未ダ我ヲ捕探シアラス

(4) 二十七日

九	九	八	七	四	四	五	四	四
三	二	〇	九	三	四	九	〇	四
五	〇	五	〇	二	五	五	五	五
MC/S	MC/S	MC/S	MC/S	MC/S	MC/S	MC/S	MC/S	MC/S
真方位	真方位	真方位	真方位	真方位	真方位	真方位	真方位	真方位
一八〇度	一九〇度	一九〇度	二〇〇度	二五〇度	二五〇度	二〇〇度	二〇〇度	二〇〇度
感度	感度	感度	感度	感度	感度	感度	感度	感度
三	三	三	三	三	三	三	三	三

電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明
電波周波数不明

真方位
真方位
真方位
真方位
真方位
真方位
真方位
真方位
真方位

二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度
二〇〇度

感度
感度
感度
感度
感度
感度
感度
感度
感度

三
三
三
三
三
三
三
三
三

- (3) 電探ヲ連絡ヲ取リタルモノハ最近距離ニ在リテ我ヲ捕捉セルモノナリト判断ス
- (3) 探知器ハ極メテ有効ニシテ多数裝備ヲ要ス
尚現在供給中ノ極波用探知器三型ハ兵器茲ニ裝備法ニ関シ速ニ改善ノ要アリ
- (4) 探知器ヲ利用シ多数艦艇ニテ各方向ヨリ方位ヲ測定シ敵潜ノ位置ヲ確メ之ヲ掃蕩スル如クセハ効果ヲ發揮シ得ルモノト認ム

七

敵ノ戦法茲ニ鍊度ノ概見

戦闘機爆撃機雷撃機ノ連集協同動作見事ナリ
 戦闘機ハ率先爆撃機ノ突撃路ヲ啓開シ勇敢ニ機銃掃
 射ヲ以テ爆撃機ヲ誘導ス

爆撃機又相互連繫巧ミテ自己モツカ又攻撃ヲ行ヒヨロ
 乃至三五附近ヨリ急降下ニ移リ投下矣概ネ \leq 100
 ナリ或ルモノハ同航対勢ヨリ反転シ急角度ニ降下爆撃
 ス此ノ例ハ相当見受ケラレタリ

他隊ヲ攻撃中攻撃ノ機會ヲ覘ヒツアル飛行機ガ上空
 ニ相当待機ニアルモノト考ヘテ可ナリ此ノ際之ニ対シ砲
 火ヲ指向セバ攻撃セズ避退スルカ中ハ爆弾ヲ遠距離ニ
 投下シ避退スルモノアリ

敵ハ三機又ハ五機ヲ一隊トシ單機ニテ行動スルトナシ

雷轟機ハ概ネ「以上ニテ発射ス(投下高度一〇〇米程度
 低キハ五〇米程度ナリ)而シテ來襲高度高ク爆轟機
 トマギ易シ(爆轟機ハ射程外ニテ田園ヲ移動シ突襲前
 高度ヲ高ク突進シ來ルモト我海軍ノモノト略同様
 ナリ)練度戰意共ニ一般ニ輕視スルモナルアリ
 但シ今回ノ戰鬪ニ於テハ友軍ニ戰鬪機ヲ敵ノ制空
 圏下ニ彼等ノ常套手續タル弱シト見ル最モ勇力敢トシ
 特性ヲ發揮シテ猛進シ來ルモノト思考セラルヲ以テ敢
 テ恐ルニ至ラザルモノト認ム

ハ空母ヲ主体トスル輪形陣ニ就テ

輪形陣内敵艦ハ極力陣形ノ保持ニ努ムラ要ス敵機
 空襲時ハ母艦ノ自由回避ノ味方彈丸落下等ノ爲警戒
 艦ハ勢ヒ母艦ヲ離レ勝トスルニ度母艦傷ツカハ更ニ其ノ

傾向大トナルスルテハ母艦防衛上大ナル欽陥ヲ來スヲ以テ陣形ノ保持ニ特ニ留意スルヲ要ス

通信料

空中線切断ニタル場合ニ於テモ交戦中通信繼續ノ為本艦型受信用環状空中線ハ被覆線トナスヲ要ス

第六戰言

(航海科)

一般戰訓所見

今次ノ戰鬪ハ主トシテ対空戰鬪ニテ其ノ他ノ対潜

戰斗及対潜警戒ヲ以テ終始セリ

一團ノ戰鬪ヲ以テ兵裝配員等ニ関シテ結論ヲ得ルニトハ危

険ニモ將來ノ趨勢ヲ稽ハテ速アレハ

①電力ノ確保

電力ノ確保ニ艦戰斗力維持上絶對的ニモテ特ニ通信

装置故障セバ戰斗指揮不可能ナリ之ガ為左ノ處置ヲ要ス

①主電路ノ浸水防衛

特ニ近海ニ依リ浸水對シ安全ニ如ク儀表ニテ要ス

②舵取機ニ兼用ノ内火発電機ノ増備

(三) 發備通信装置(電池電源)ノ完備

(四) 船頭ノ防禦

本艦型ノ船頭室ノ單底ナリ今次戰鬥至近海ノ被害アリ

スモ船頭室(及船取機械室)ノ艦底防禦ヲ促進スラ專ス

(五) 艦橋艦裝

戰鬪艦橋ハ累次ノ改造ニ依リ兵器施設ハ完備セルモ互

于涉大ナリ速ニ整理シ于希テ極力少カラシムラ專ス

ニ見張

(一) 水上戰鬥ヲ主トスル上部及下部見張ハ見張所ヲ備トスル外

其ノ價値ヲ認得テ対応見張ハ上空見張所ヲ著見張ハ

戰鬥艦橋ヲ主トスル如ク速ニ整備スルノ要アリ

(二) 高角砲及機銃群指揮官ニ專務見張員ヲ附屬セシムルハ

砲火指行ニ絶對必要ナリ今次戰鬥上効果絶大ナリキ

(ハ)見張之最も困難ナルハ對潛見張ナリ之が訓練ハ萬難ヲ排シテ行フ
ヲ要ス 而シテ經驗多ク等級之ニナルモノハ對潛見張ニ配員スルヲ
可ト認ム

三、探舵

(イ)對空戰鬥中ハ發砲ノ聲音ニテ探舵及速力指令全ノ通達セス命
令器ノ整備ヲ要ス 而シテ速力指令ハ司令塔ヲ中継スルヲナシ
直接機関指揮所ニ至ル如ク通信器ヲ裝備スルヲ要ス(軸杆
裝置ニ依ルモノハ其ノ儘トス)

(ロ)探舵裝置中舵ハ豫備ナキヲ以テ雷爆撃回避上及豫備舵
ノ意味ニ於テ艦首附近ニ舵ヲ増備スルヲトニ關シ研究ノ要アリ

四、水中聽音

聽音機ノミニテハ水中測的ノ効果少シ速ニ探信儀ヲ裝備スル

五、信號ヲ要ス

警戒航行中信號量、實ニ龐大ニシテ之カ圓滑ノ通信ヲ計ル爲左ノ處置ヲ要ス

(イ) 二。捩信號灯ノ一斉送信装置

(ロ) 信號旗ノ通達距離ヲ三・〇・米程度トシ十二捩双眼望遠鏡ヲ使用シテ見得ル程度ニテ我慢シ多数ノ掲揚ヲ容易ナラシム

(ハ) 本艦ニテハ晝夜ヲ問ハズ平均ニ五直配置ニテ終始セリ
平均三直配置トナル如ク三十七名ノ配員ヲ要ス

機關科

一機關ノ計畫及製造ニ関スルコト(船体ヲ含ム)

(イ)飲水罐ノ増設ヲ要ス

理由

今次ノ対空戦闘ノ如ク長時間連続戦闘ニ於テハ飲料水ノ需要ハ極メテ多量ニシテ而シテ之ガ補充為前部ノ非冷却器室迄若年ノ兵ヲ派出スルニ至最ナル艦内閉鎖ノ為体力消耗甚シク且途中ニテ対空戦闘ノ奔令ヲ賜合モアリ極メテ不具合ニ就テ是非共機軸罐共待機所附近ニ各約五百立程度ノ飲水罐ヲ新設眞水管ヨリ補給可能ナル如クスルヲ要ス

(本件工廠了解實施豫定)

(ロ)機軸室給排氣口ノ防禦強化ヲ要ス

理由

今次戦闘ニ於テ被害ハナカリモ爆弾ノ落角ハ殆ド垂直ナルモノ
 アリ排気口天蓋ニ差當リテノ耗程度ノ鋼板裝備ヲ要ス
 (今回不施行)

二 指揮通信装置ノ制式及計画製造ニ関スルコト

特ニナシ

三 船体兵器及機關ノ整理ニ関スルコト

のし撃前ハ多ク少ク無理アリトモ極力分解検査且勵行ノ要アリ
 理由
 出撃前旋轉神機ノ總分解検査且實施セル處ニ安シテ運
 轉ニ臨ミ得

戦闘被害時ニ復水「ポンプ」ニ台非常弁作動(至近彈)
 セル(適切ナル應急處置ニ依リ運轉力度ハ影響ナシ)他
 何等異常ナシ

四 機關ノ操縦ニ関スルコト

の頻繁ナル対空戦闘ニ於テハ三戰速以上ノ速力変化ニ對ス
 ルノズル弁ノ變更實施セズ常ニ最大戰速ニ對スルモノヲ

理由
啓開と置くと可ト認ム

連続通風管制ヲ實施スル状況ニ於テ運轉員体力消耗甚大ナリ

(b) 罐水「ドレン」(給水加熱、重油加熱)ハ対空戦闘ノ令ニ遮断

打方止メ(控)待テテ復旧スルヲ可ト認ム

(c) 軸受最高温度ハ六十八度迄上昇セシモ整定セバ不安ナシ

機関指揮機関運轉要務及機関ノ待機ニ関スルト

艦橋ニ派出シタル機関科傳令員ハ極メテ有効ナリ但シ之カ
戦況ノ通達ハ稍遅レ氣味ニシテ通風管制實施上考慮ヲ
要ス

理由

運轉指揮所以外ハ僅少ナカウ戦況通報遅ルヲ以テ対空
戦闘ノ如ク状況変化速カナル戦闘ニ於テハ通達法ニ研究ヲ
要ス(例 盛ニ突込シテ来ル等ノ通報モ概テ爆弾投下後ニ

末ク、為引續キ通風管制ノ實施ヲ要スルモノト認ムルニシテ、
 速力低下等指令アリタル例アリ、而シテ通風管制ノ僅少
 ナル時間ノ差ニテ運轉員（機関員）ヲ危険状態ニ陥ラセムル
 モナリ

(四) 通風管制ノ實施ニ関シテハ高角砲發砲ノ時、機ヨリ打方待テ
 (控へ)ノ時機迄トスルヲ可ト認ム、而シテ、室内取付高湿度カ
 度トシテ以上上昇ノ際ハ排氣ノ瞬間的ニ運轉スル如
 クスルヲ可ト認ム

理由

(一) 極力管制時間短縮ノ要アリ付
 最大戦速ニ方間待機ハ意味ナシ
 但シ此況察知ニ有効ナリ
 (二) 対潜戦闘於此前進一杯ハ有効ナルモ、バブドレンニ襲来ス
 ヲ以テ運轉員注意ヲ要ス

天配員及乗員ノ保健ニ関スルコト
 今次作戦為出撃中ノ状況ハ対潜警戒ヲ嚴重

實施セラレシ爲終始ニテ節即時或三十節即時二十節

十五分間待機ヲ持續セラレ罐ハ常ニ甲罐四乙罐四短時間

乙罐一丙罐ニトスルモ四六時中散開ニ且リ対潜戦ヲ前進

一杯ノ下令アリ又機園トシテ諸管系戦斗区分ヲ實施シ

咄差會敵ニ備ヘタリ又長時間効率ト思キ限度附近ニテ

罐汽釀ヲ避ケ前途ノ如ク使用罐トスルヲ最上策トシ從テ

罐部當直ハ終始二直配置トナリ工夫創意スルモ三直

配置トナシ尚十名ノ定員充當ノ要アリ目下人事部下

協議中

機械部於テ是今次七名ノ余裕ヲ持チ居リタル爲不安ナカリモ定員

三人不安ナリ

(一) 配員ハ機械部ハ終始四直配置トシ戰闘中一ニ直運轉從事

二直室内待機所待機トシ是適當ナリ罐部ハ罐使用數應

ジ訓練ノ成果道實施セリ

(二) 機園員ニ対スル清涼飲料ノ配給ヲ增加スルヲ要ス

(三) 業務交代時間ハ一時間以内トスルヲ要ス

(四) 被害故障致損及之ヲ應急處置ニ關スルコト

(五) 直接被害ナカリシモ至近彈ニ依リ重油ヲタンクノ漏洩セル

モノ左ノ如シ

程度大ナルモノ四個(外側十番目タテノ舷側四六番目タテノ) 僅カニ漏洩ノモノ一個

尚之が調査ハ被害直後ニテハ不明ニシテ二三日或ハ其ノ以後ニ於テ 混水塊狀ヲロクニ來タルモノアリ連日徹底的ニ行ッラ要ス

(四) 爐内 煉瓦一部亀裂ヲ兆ラ未セルモノアリ(至近彈)

(ハ) 一番機(船機)主復水器前部蓋弛緩海水漏洩(至近彈) 但シ塩分ニ異状ナシ

(ニ) 復水ポンプ非常辨作動三臺アリ瞬間的ニ吐出圧力最低

ニ至シテ低下セシメタルモ力度ニ無影響

(ホ) 諸官ノ支金取付「ホール」ト「ナット」弛緩セルモノ若干アリ(何レモ工廠ニ於テ補強)

八 教育訓練ニ関スルコト

特ニナシ

九 燃料 需品ノ品質ニ関スルコト

特三十三

一〇 豫備品及消耗品準備三関スルコト

特三十三

十一 行動方面、氣温及水温三関スルコト

海水最高温度二十八度、氣温二十八度

醫務科

一 下士官用寢台ノ利用

戰傷者運搬收容移動整理上下士官用寢台ハ輕クモテ便利ナリ

利用價值極メテ大且重寶ナリ

二

熱傷治療ニ對スル尿素液ノ効果

使用時臭氣ナク且刺激性ナリ、油劑ノ如ク粘稠性ナリ以テ使用感

良シ但前処置トシテ行ハルカモオ尿洗ノ際ニシテ痛

イ痛イト言ラセテアリタルモ、程度ハ輕度ナリ、患者在艦期間短カ

カリテ爲経過ニ對スル所見ハナシ

三 失血時使用ノ乾燥血漿ノ効果

失血大量ナル患者ニ使用シ輸血ト何ヲ異ルナキ成果ヲ示セルヲ認メタリ

但ニ胸内苦悶、高熱ヲ發シタル一例アリ

四、熱射病豫防

今期出撃の際に二十名熱射病患者が發生セリ、最モ多キは前部水兵機室八名、機械室五名、彈庫員四名、噴キ長時間連續戰闘時ニ於ケル換氣ニ関シテハ甘場長充命注意スル要アリ、殊ニ各分隊准士官以上、関心ヲ換起スルコト切ナルモノアリ、自己ハ比較的涼シク有利ナル場所ニ在ル為部下勤務環境ニ氣付カサルハ大ニ注意ヲ要ス

主計科

一、飲料水「タンク」及洗水「タンク」ノ増設ヲ要ス

今次対空戦斗、如ク長時間ニ亘ル時ハ茶飲料水ヲ要求スルコト甚ク多ク、狭隘ナル烹炊所ニ於テ戦斗中常時湯茶ヲ煮沸シ、或ハ清水ヲ烹炊スニ取リ供結中サル可カラズ、之等兵員多數ニ烹炊所ニテ混雑シ、次回戦斗烹炊作業ニ支障ヲ来ス、コト大ナルヲ以テ差當リ左記、如ク増設ヲ要トス

(一) 罐室或ハ機械室ニ飲料水「タンク」ヲ増設シ、機關科 關係員ノ飲料水ニ充當スルコト

(二) 短艇甲板左舷隔壁ニ洗水「タンク」ヲ増設シ、洗水ニ充當スルコト

二、清水「タンク」増設ヲ要ス

長崎間ノ戦斗中於テハ音響管制ヲ為揚水スルコトヲ指示セラレ、或ハ砲撃時

爆風等ニ依リ清水ヲクソク破損シ戦斗中清水ヲ得ラザル場合
アルヲ以テ之等故障ニ依リ豫備トシテ適當ナル位置置清水ヲ貯リ増設
要ス

三 烹炊所ヨリ戦闘及羅針艦橋ニ至ル傳聲管ノ設置ヲ要ス
戦闘烹炊作業上烹炊所ヨリ戦闘及羅針艦橋ニ傳聲管ノ設置ヲ要

要トス

四 戦闘應急調理配食ニ関スル教育訓練ヲ充分ニ徹底セシムルヲ要ス
新兵教育中ニ於テモ握飯巻壽司五目飯等ノ戦闘烹炊作業ノ充分ニ基
礎教育ヲ爲シ艦船ニ於テ人相當至難ナル状況想定ノ下ニ猛訓練ヲ爲シ
置カザル可カラス

長時間ノ巨ル對潜戦闘或ハ長時間ニ亘テ苛烈ナル戦闘中ニ於テ
配食ハ中々困難ナリ

五 主計兵特ニ身体強健ニシテ優秀者ヲ選兵スルヲ肝要トス
戦闘中主計科員ハ彈藥供給員應急員作戦記録員及治療
所員トシテ兼務戦闘配置ニ就キ此ノ間掌衣糧長烹炊員長等
小數(大石位)ノ者ニテ烹炊作業ヲ爲シ兼務員汗ダラシクモ
所ヨリ帰ルハ直ニ烹炊作業ニ就カシメ各戦闘配置ニ配食員トシテ
ラカ不林狀況ヲ繰リ返シ強健ナル体カト旺盛ナル敢闘精神ヲ發揮

セミタ各任務完遂ヲ要スルヲ以テ主計兵選兵上一層ノ考慮ヲ必要トス

六 艦船戰時豫備烹炊所ノ設置ヲ必要トス

戰鬪被害ニ依リ使用不能ノ場合等ヲ顧慮セバ戰時豫備烹炊所ノ設置ハ肝要ナリ一時^的應急烹炊施設ハ長時日^的戰鬪航海中烹炊作業ハ至難ナリト認メ戰時^的豫備烹炊所ニハ緊急所^的要糧食品ヲ分散格納シ置キ非常利用シ本烹炊所被害ニ依リ予備烹炊所ニ移転シ得ル如クナラザル^ニ將來建造艦船等ハ本件ヲ考慮シ肝要トス

第七 參考 参考

一 附圖

第一 行動圖

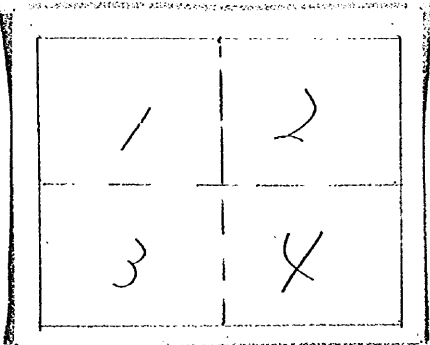
第二 合戰圖

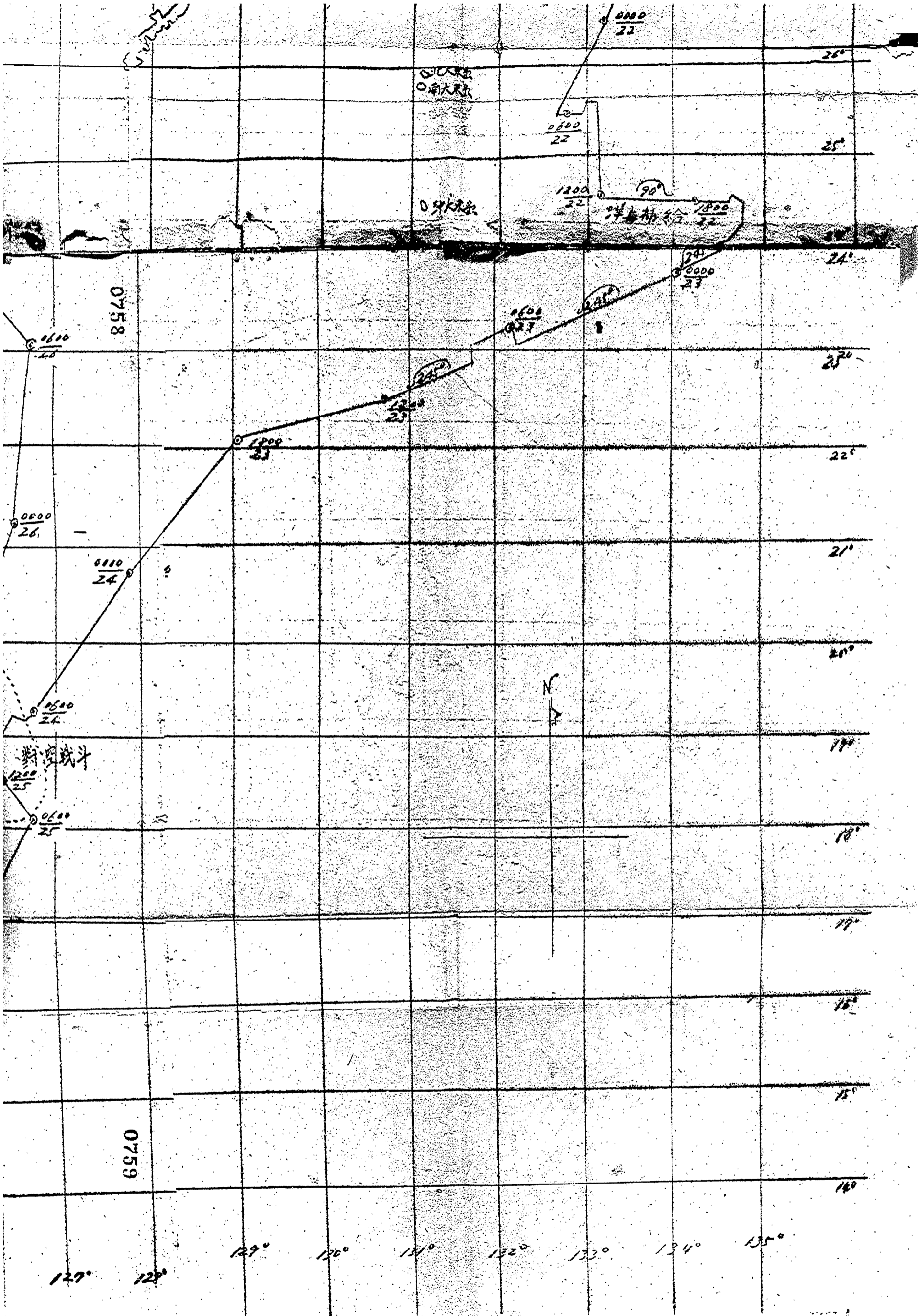
三 附 表 天氣圖

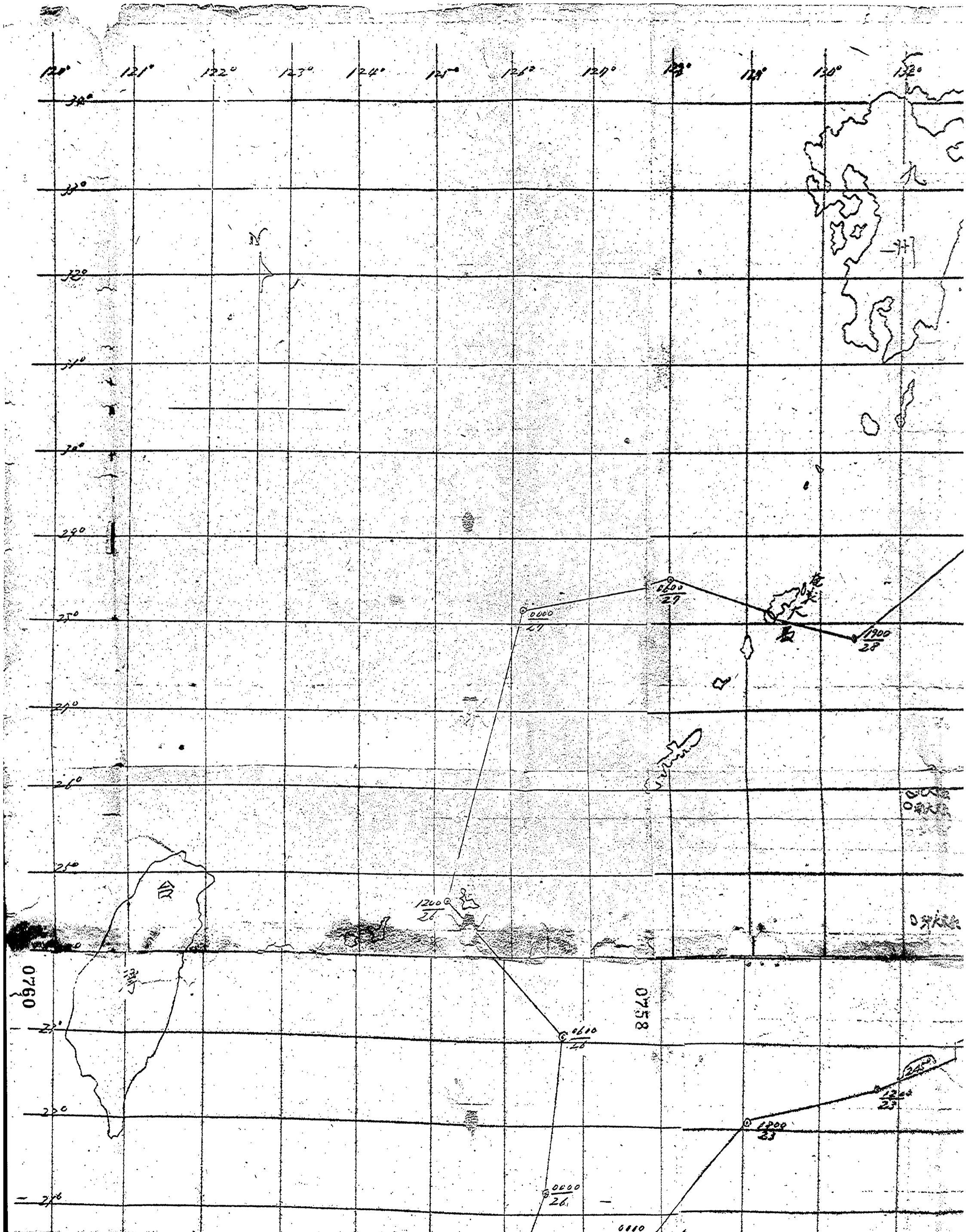
四 寫 真 (後送)

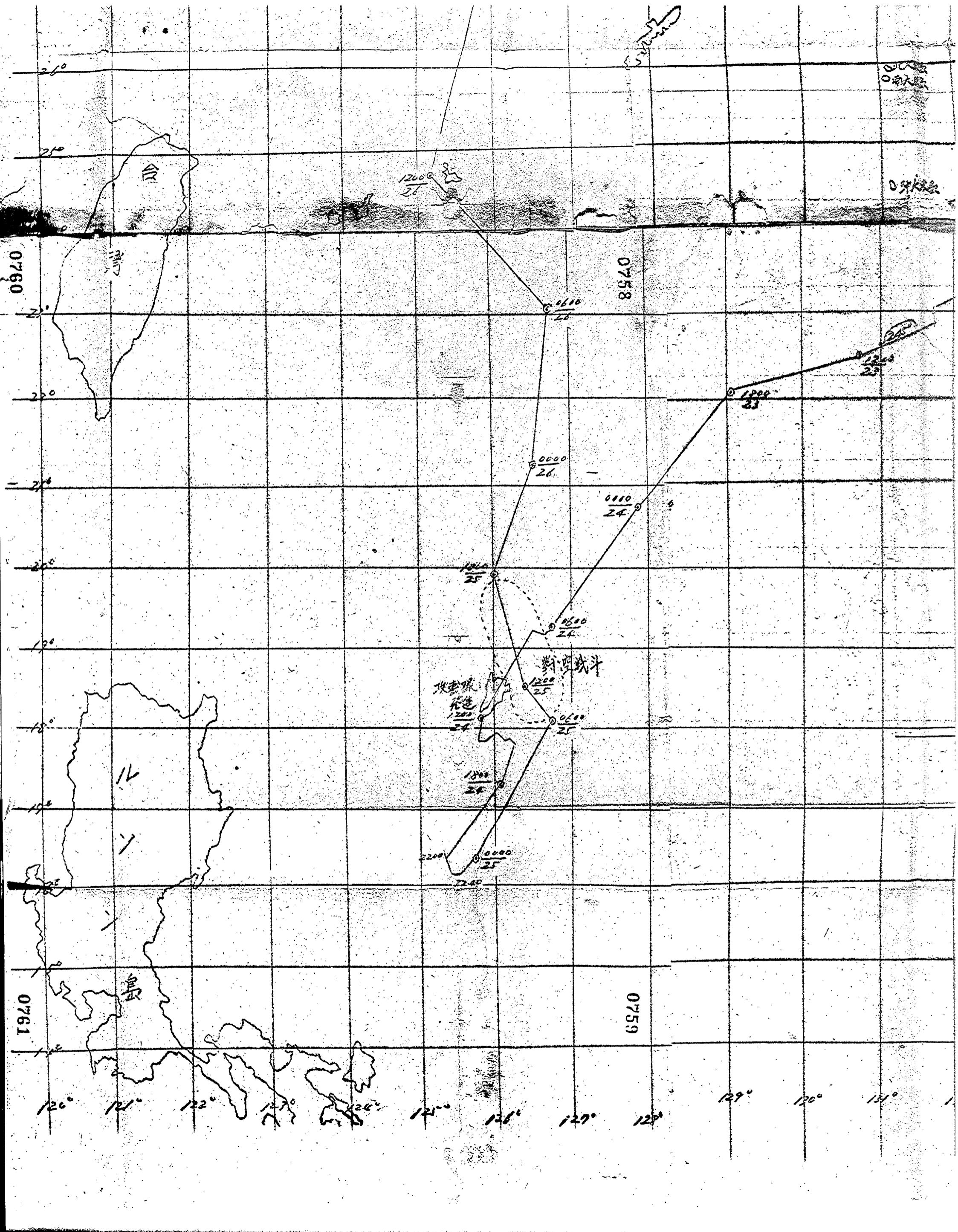
(艦)

分割撮影ターゲット

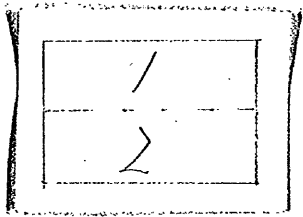
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2年12月28日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	







分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 26 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

2920

1150 240°方向 =
飛行機群探知

1212 第一次航空戦斗終結

0958 第二次航空戦斗開始
0955 135°方向3機 = 飛行機、大群探知

0908 第一次航空戦斗終結

0852 325°方向、計20機

0830 1

0817 220°方向35機
飛行機、大群探知

0815 2
0819 第一次航空戦斗開始
0812 計24機
0811 60機
0801 7.50

35000m

0707 180°方向170機 =
飛行機、大群探知

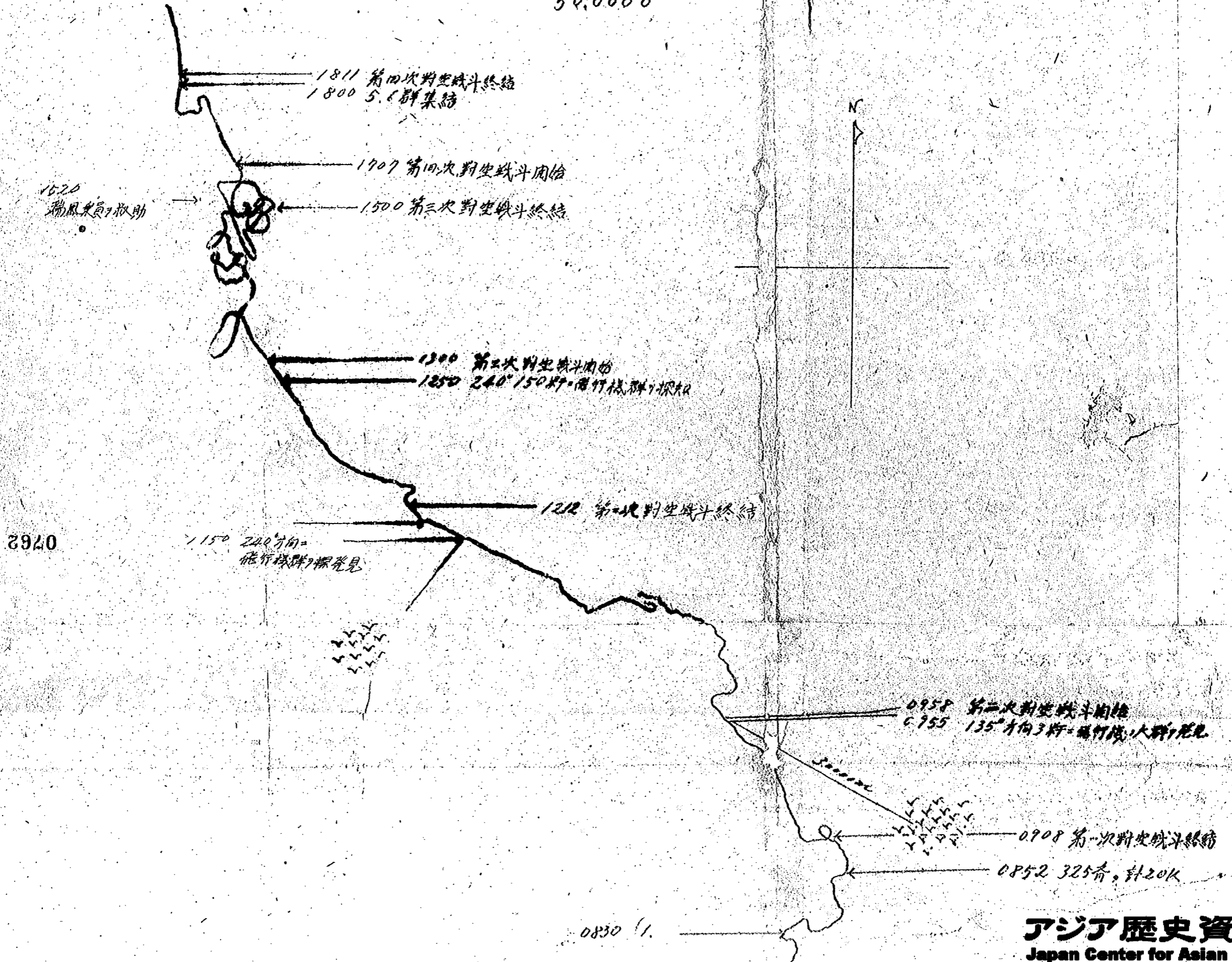
0708 航空戦斗

0700

圖戰合空對勢伊艦軍

尺縮

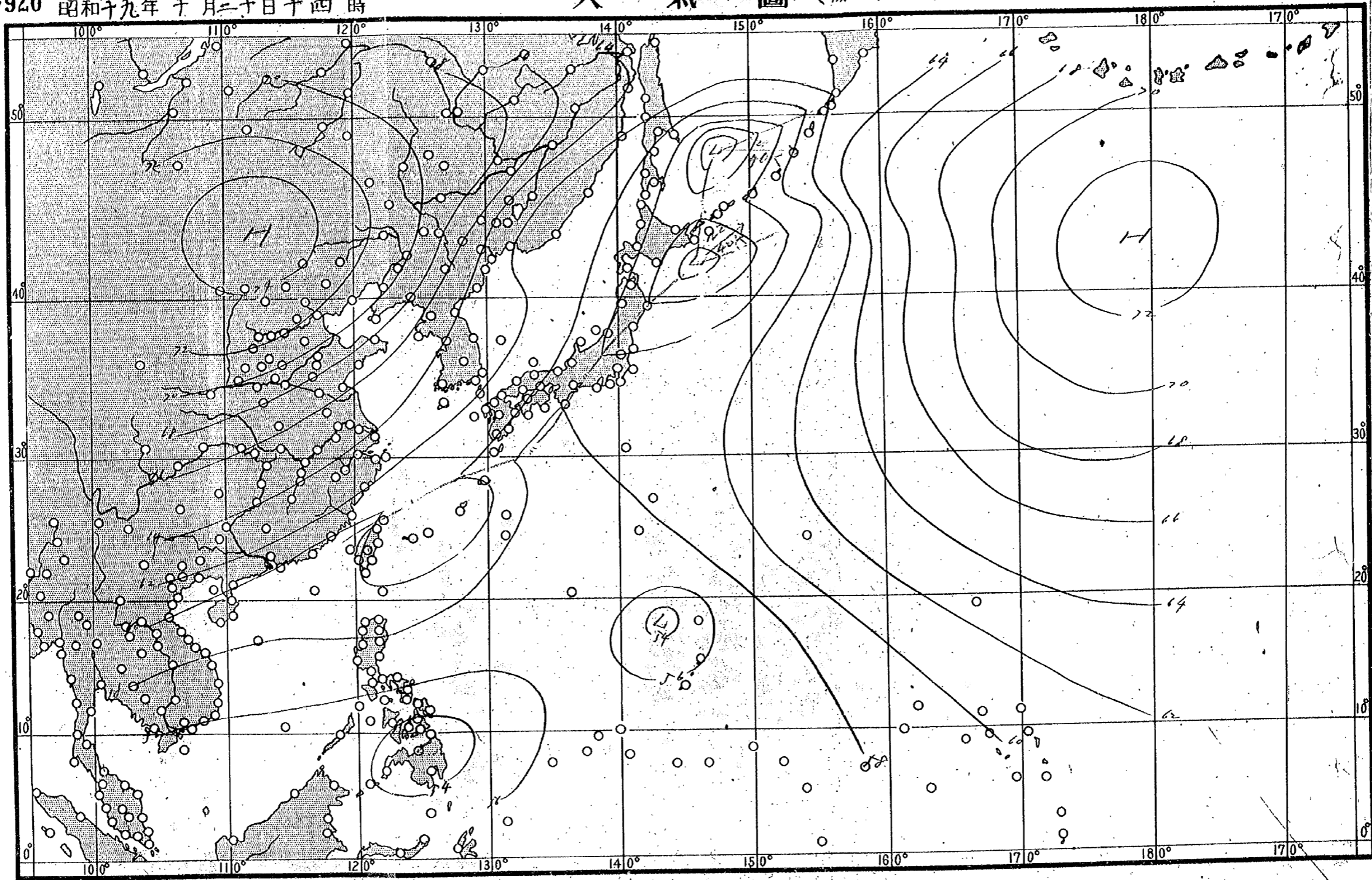
50,000



2940

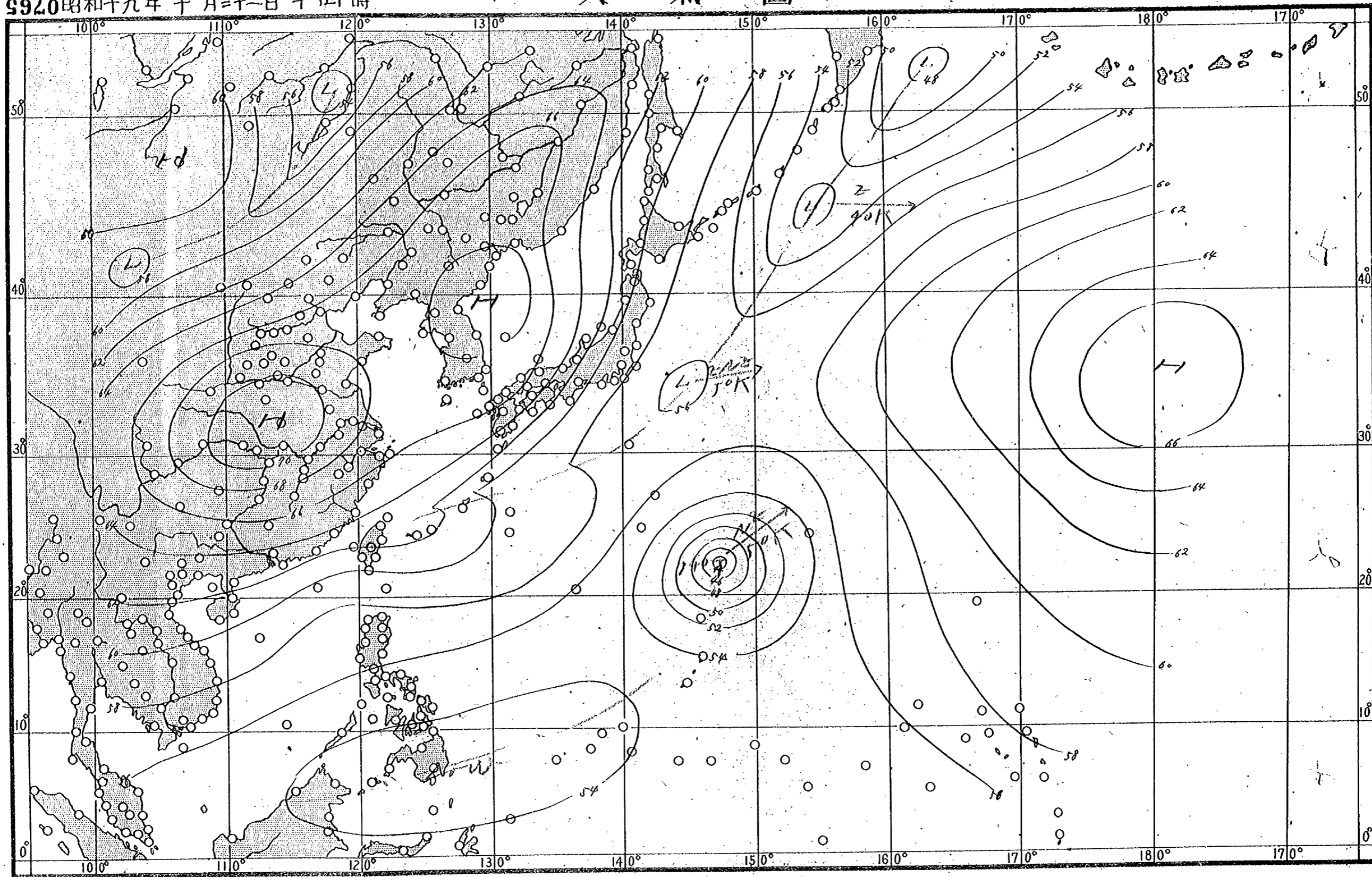
6920 昭和十九年十月二十日十四時

大 氣 圖 (様式 92)



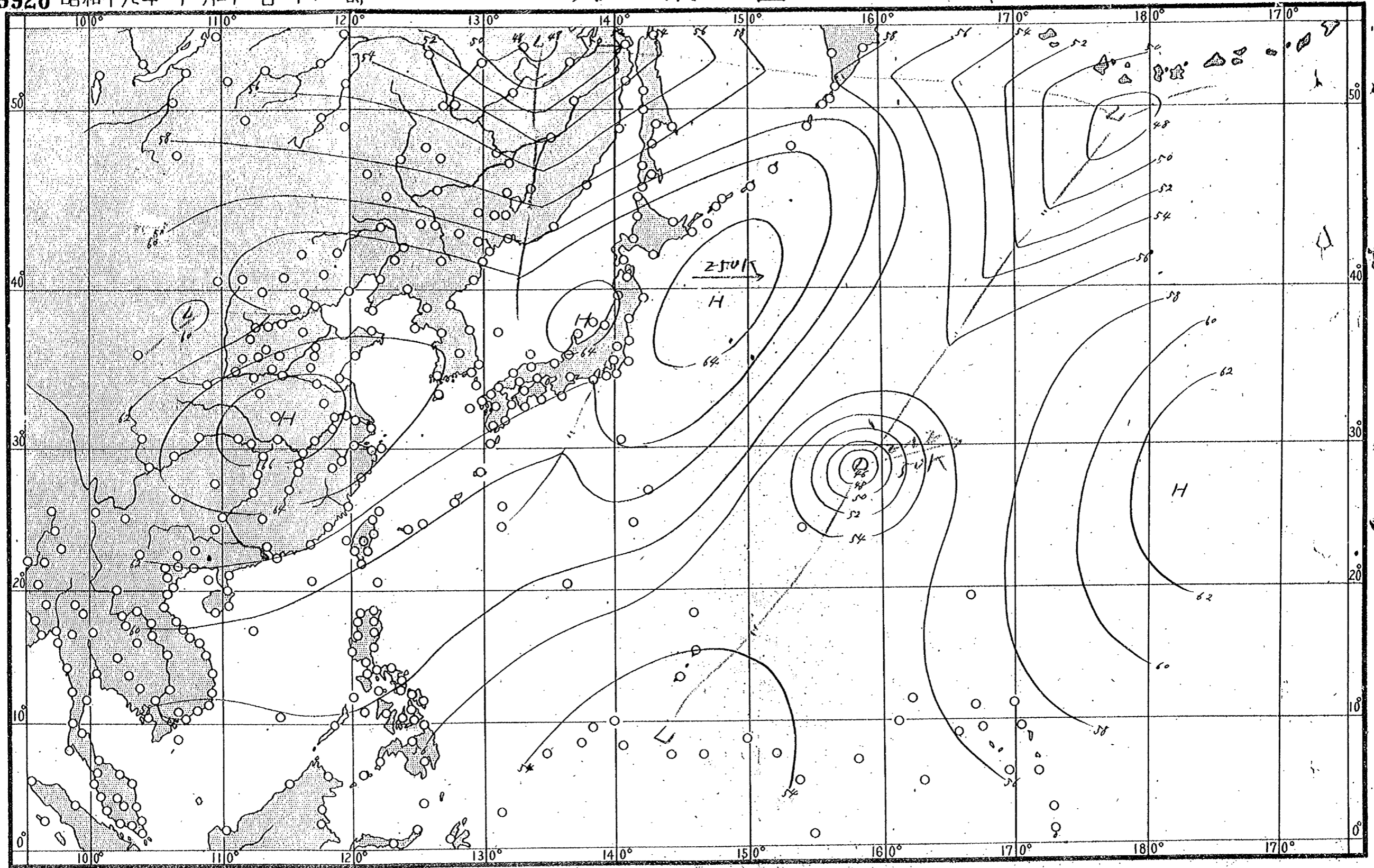
9940 昭和十九年十月十一日 十四時

大 氣 圖 (様式 92)



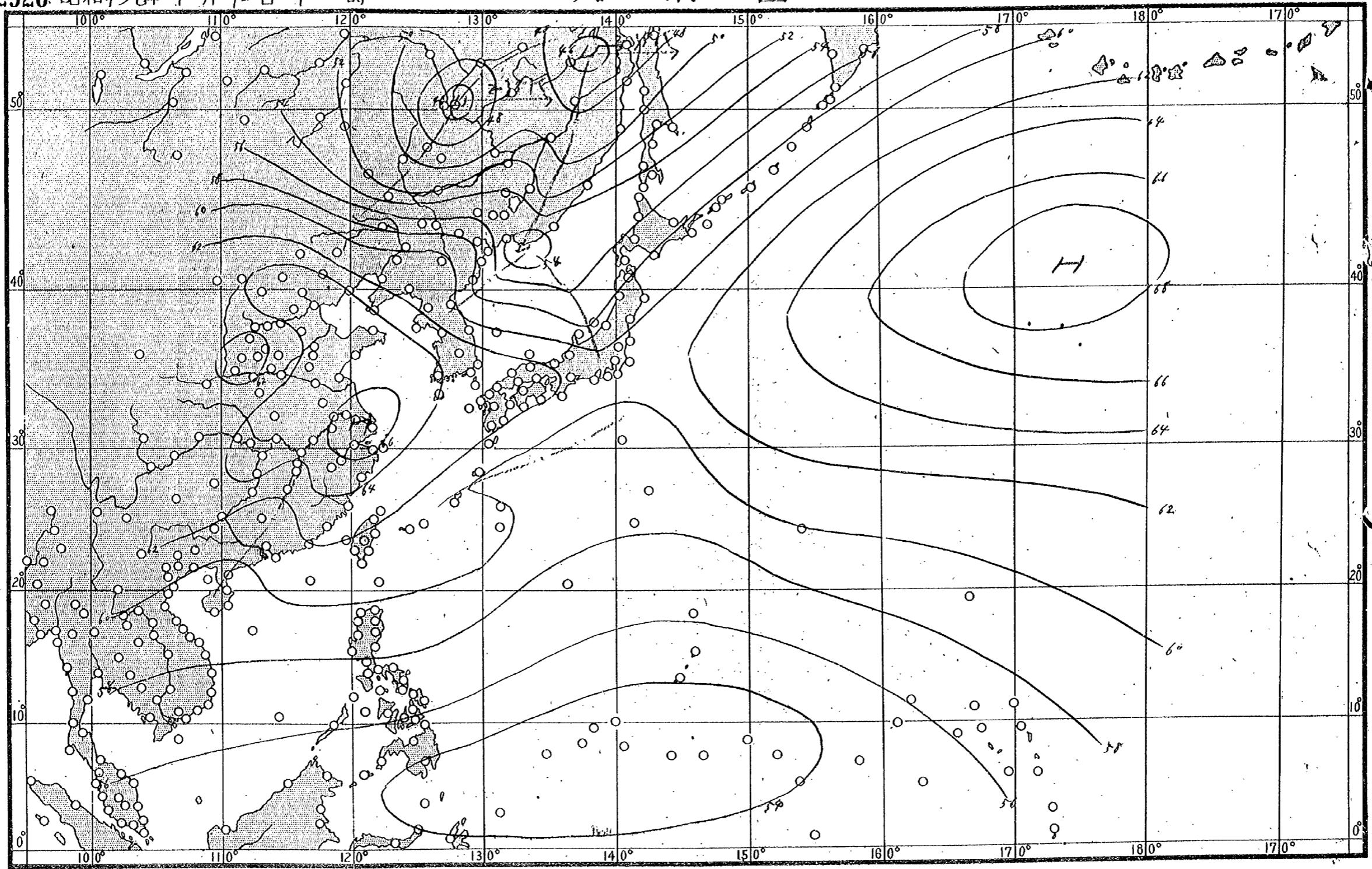
9920 昭和十九年十月二十二日 十四時

入 米 圖 (様式 92)



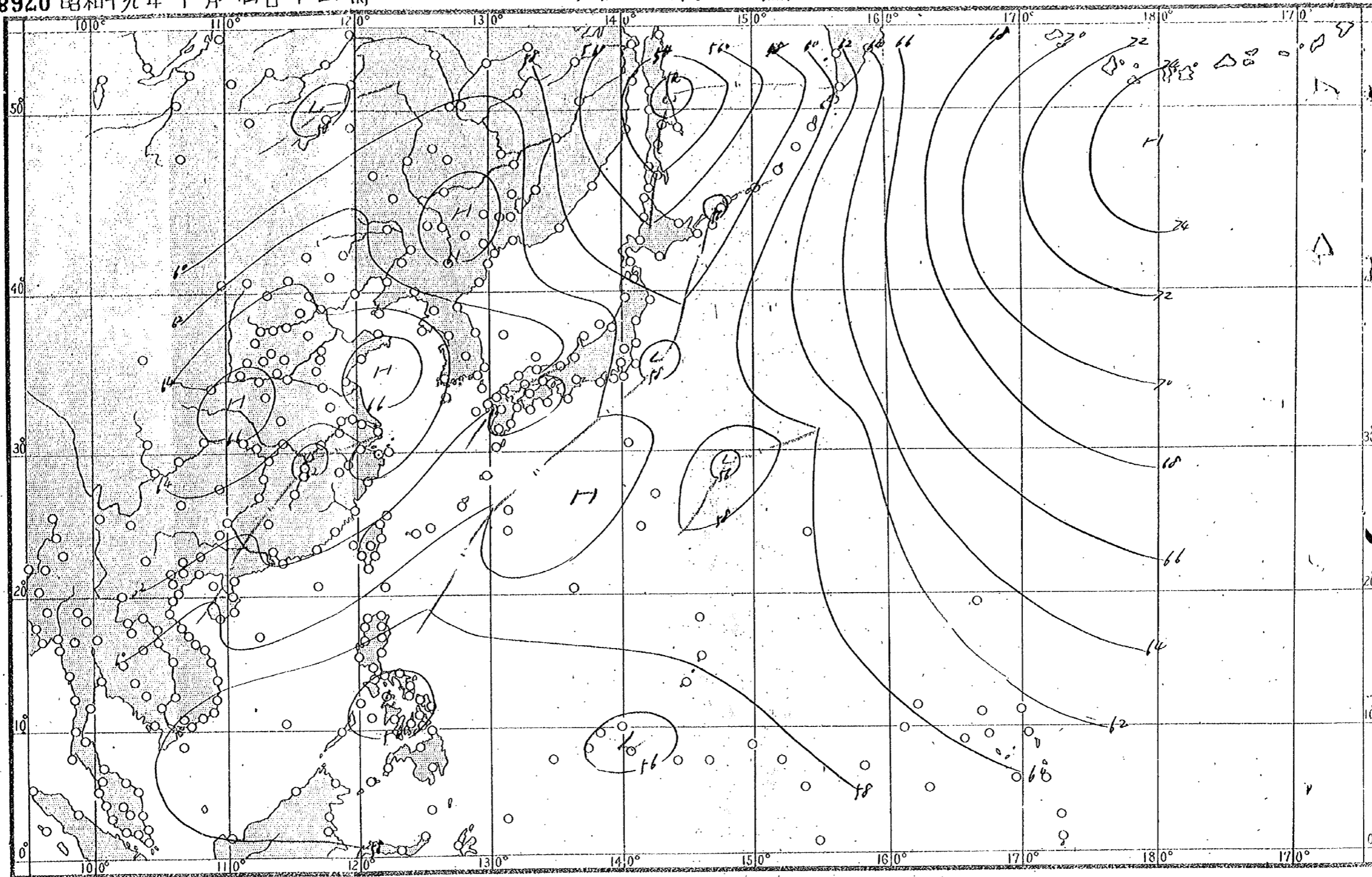
4920. 昭和十九年十月十三日 十四時

大 氣 圖 (様式 92)

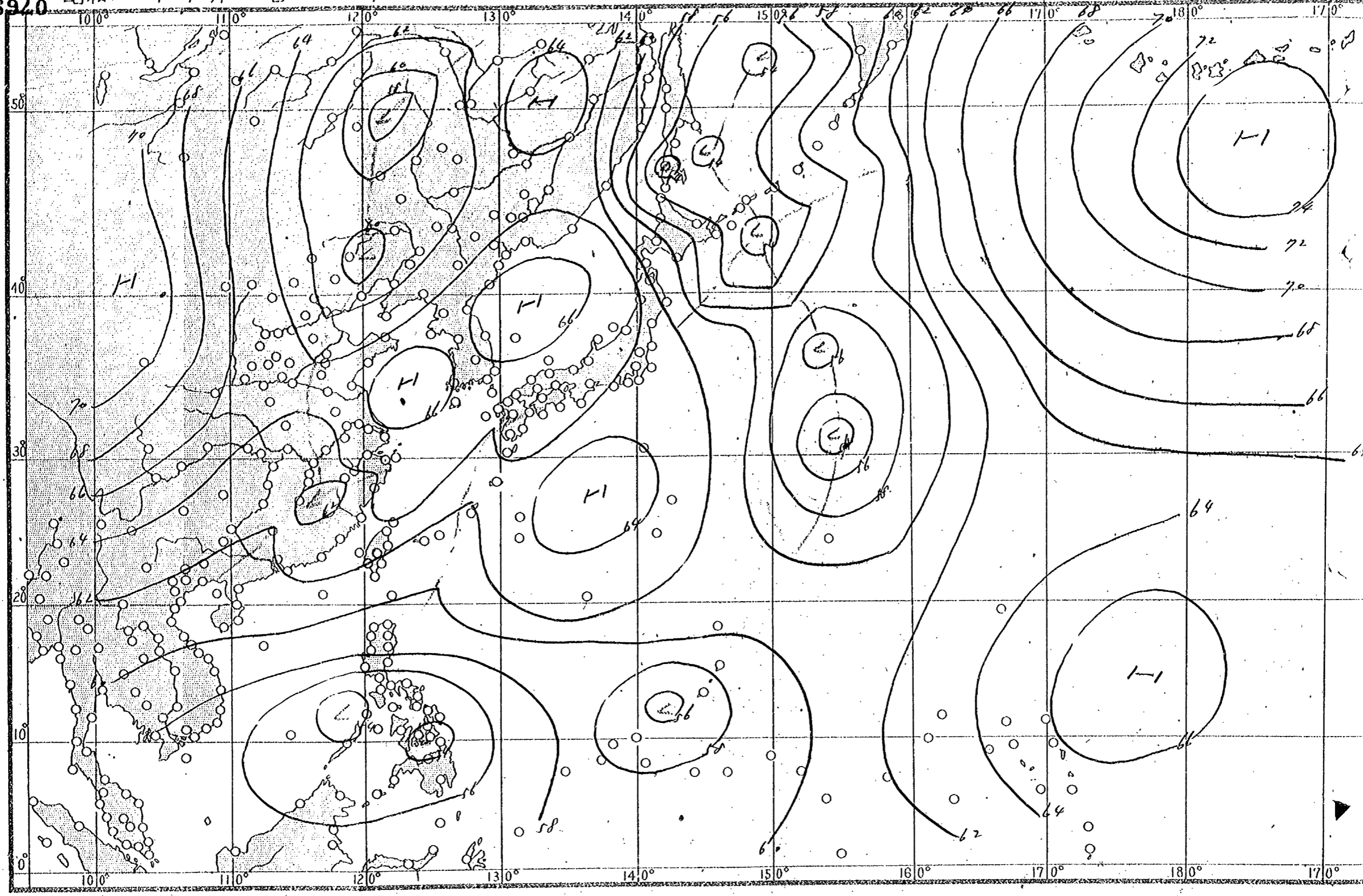


8920 昭和十九年十月十四日十四時

入 米 回 (様式 92)



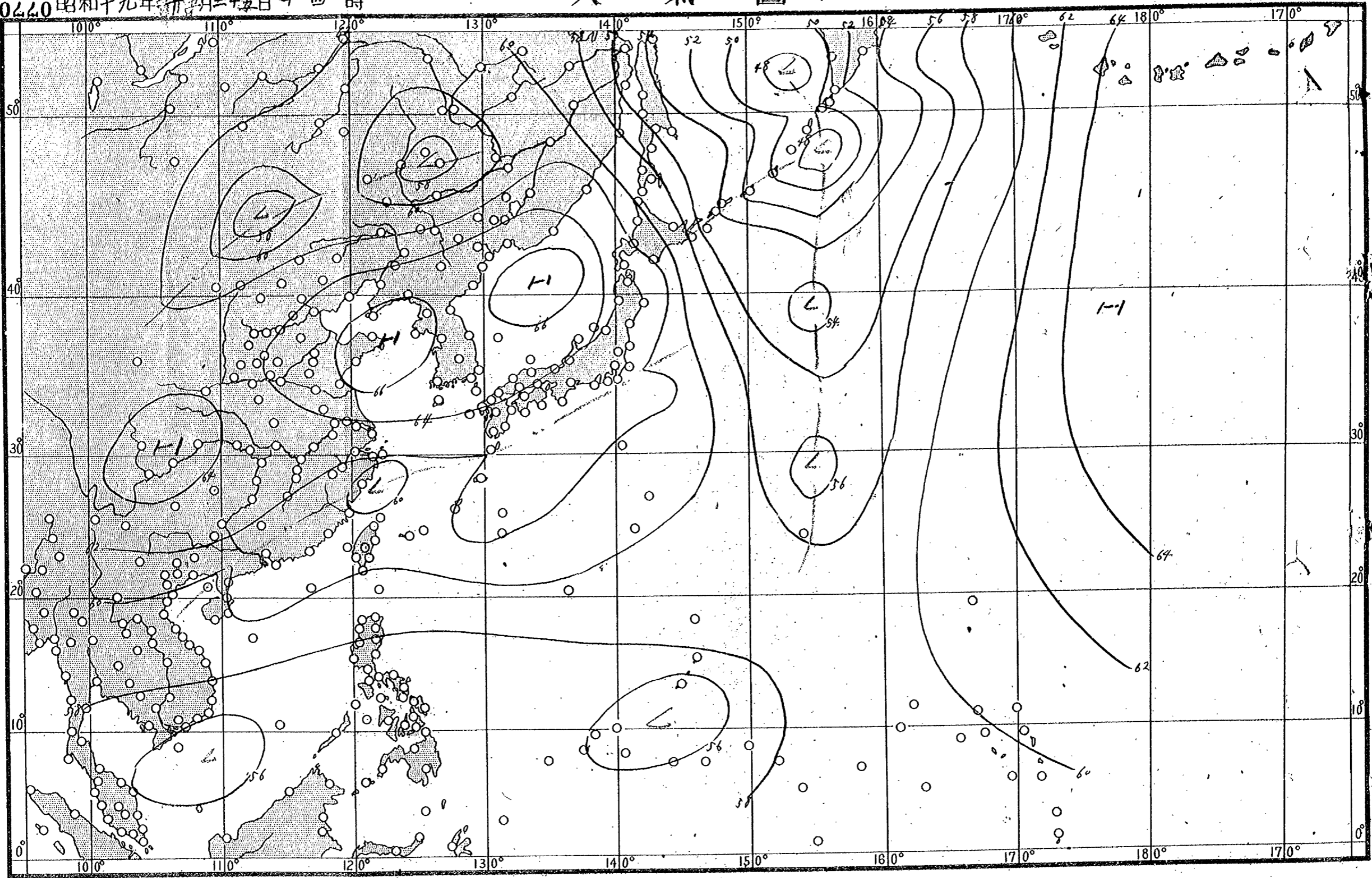
6940 昭和十九年十月二十五日 六時 八 米 回 (様式 32)

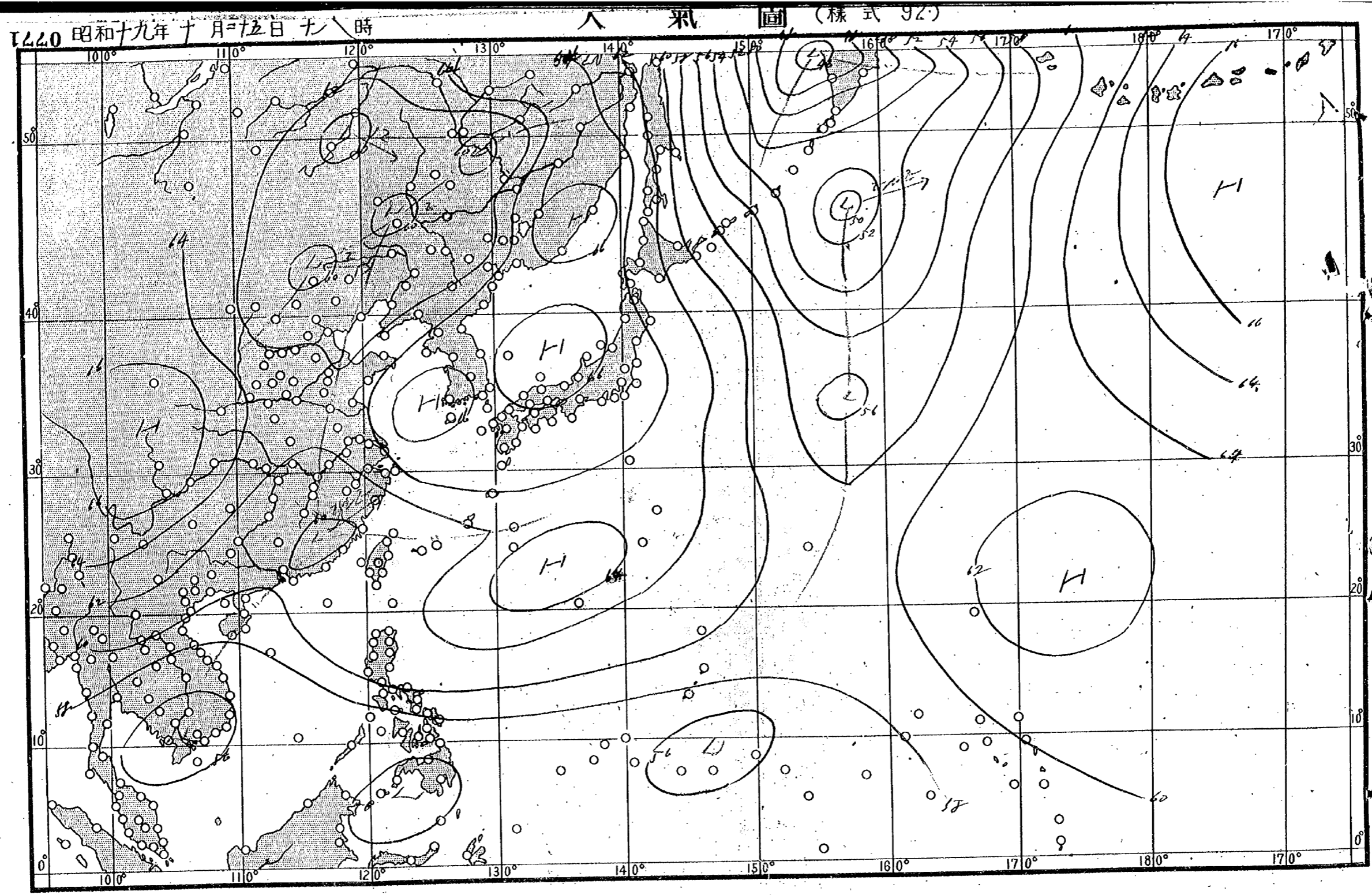


32
 1
 予算開議 左から藤田、左藤、藤田、石橋、木村、佐藤、山口、吉木、渡邊、寺尾、
 東京 軍事 資料
 ていふスキにつ
 効率は増し
 必要はあり

0440 昭和十九年十一月二十五日十四時

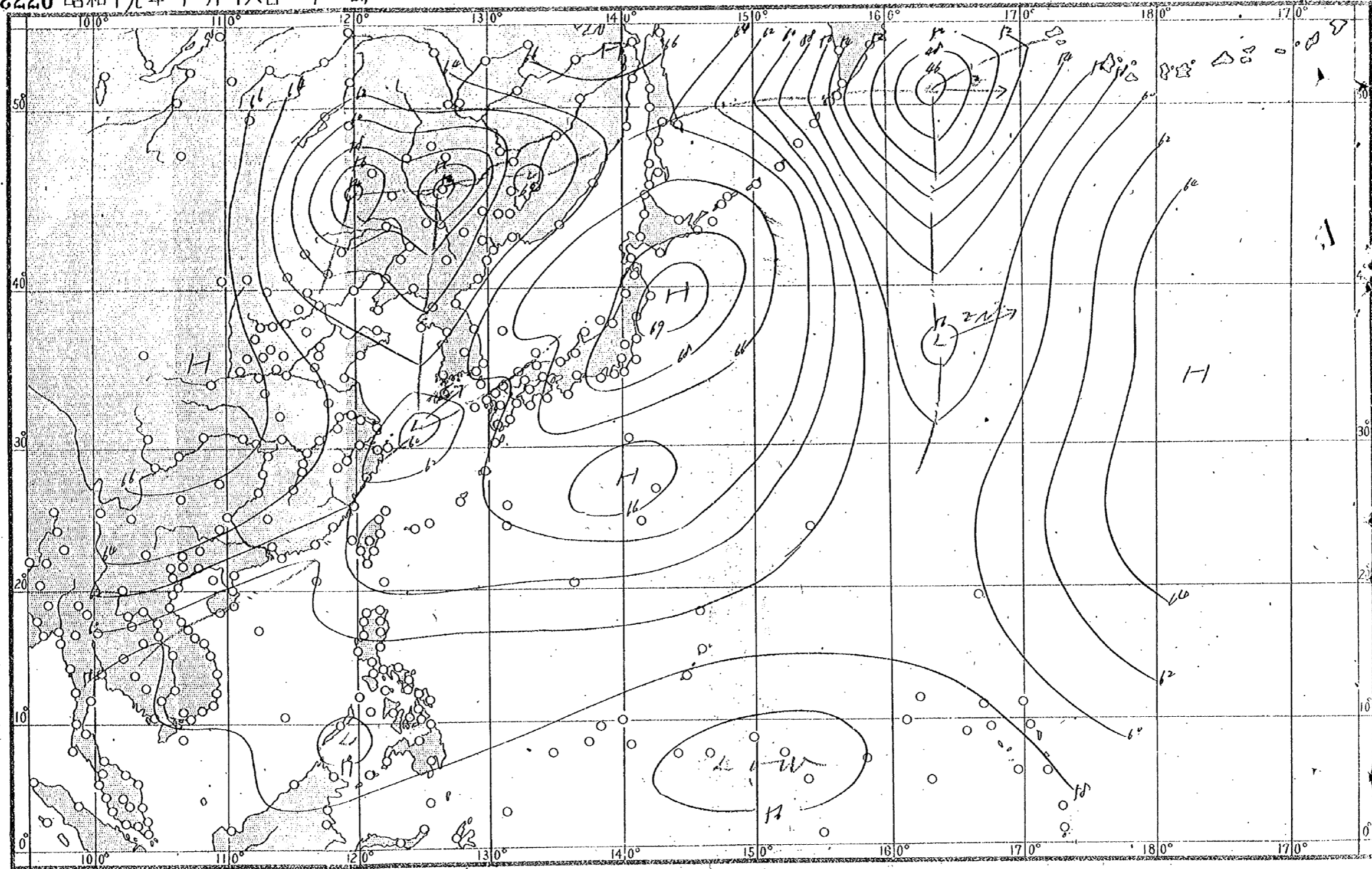
入 氣 圖 (様式 92)





2420 昭和十九年十月十六日 十時

大 氣 圖 (様式 92)



8220 昭和十九年十月二十七日 十時

大 気 圖 (様式 92)

